

2019
No.92

[2019年3月~5月号]

青山学院大学

<https://www.aoyama.ac.jp/>



AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS



特集

地球社会共生学部第1期生の卒業を迎えて 第95回東京箱根間往復大学駅伝競走 大会新記録復路優勝で総合第2位

Topics

レスリング部が全日本選手権で優勝・準優勝を獲得

AGU Lecture

社会情報学部「コミュニティや社会活動における学習」

社会情報学部 香川ゼミ



特集 地球社会共生学部 第1期生の 卒業を迎えて



地球社会共生学部
地球社会共生学科主任
升本 潔 教授
(専門分野：国際協力論、持続的
開発論、環境と開発)

地球社会共生学部
地球社会共生学科4年
天野 遼太郎 さん
静岡県立富士高等学校出身
内定先：ジャパン・リニューアブル・
エナジー株式会社

地球社会共生学部
地球社会共生学科4年
成瀬 華子 さん
東京・私立東京都市大学等々力
高等学校出身
内定先：全日本空輸株式会社

地球社会共生学部
地球社会共生学科
仙波 憲一 教授
(専門分野：理論経済学、マクロ・
ミクロ経済学、経済・経営数学)

(以下敬称略)

地球規模の課題に向き合い、より良い地球社会の創出に貢献する学生を
養成することを目的に開設した地球社会共生学部(以下GSC)。
その第1期生が、今春卒業を迎えます。
GSCを率いてきた先生方と、2人の第1期生に、4年間の振り返りとともに、
今後の進路やこれからのGSCについて語ってもらいました。

自由に伸び伸びと 自分たちの道をつくった1期生

升本 1期生
が卒業を迎え
ますが、4年前
を思い出すと
感慨深いもの
があります。
最初はどの学
生もとても元
気、といった
印象でした



が、アジアへの留学を経て、学びや物事への
関心に深みが出たと感じました。

天野 これまで経験してきたことすべてが
つながるような、そんな切り口を学んだ4
年間でした。「文化芸術コミュニティ論」で
は、文化を介して、分断された途上国のコ
ミュニティの融和や共生に貢献する力が
身に付けられ、有意義でした。世界で活躍
する青学の卒業生がゲストスピーカーと
して行う授業も刺激的でした。

升本 われわれも暗中模索の部分があっ
たし、学生もモデルがないので戸惑うこ
ともあったかもしれません。逆に言えば、
型がないので自由に伸び伸びと自分たち
の道をつくっていかれました。その結
果、学生たちは個性を伸ばすことができ
たと思います。

天野 先輩が
いない学部へ
進学するとい
う不安は一切
なかったです
ね。自分たち
で道を切り拓
こうという気
概があったの
で、実際、4年
間過ごす中
でも困ったこ
とはありません
でした。



成瀬 私も1期生だという不安はありま
せんでした。1期生は皆、仲が良くて、積極
的に突き進む人が多いですね。

卒業後も根幹にあるのは 「地球社会共生」のマインド

升本 GSCではアジアの大学への半期留
学が学びの中心なので、英語にも力を入
れています。1年次には英語を母国語とする
教員によって週6回授業があるほか、課外
プログラムも用意しているので、英語を学
ぶ環境はかなり整っているといえます。次
年度以降は留学後も英語力をアップでき
るような授業を新たに設置予定です。

天野 私の留学先はタイでした。現地では
少数民族の地域に行く機会もあり、自分の
置かれている状況を客観的に認識し、さま
ざまな立場の人々や国との共生について
考える良い経験となりました。

仙波 学生たちには、卒業後は、社会や人
の役に立つという気持ちを具現化する分
野に進んでほしいと思っていました。加え
て学生たちは海外志向を持っているので、
それを生かせるような進路を選んでくれ
たら良いと考えています。結果として、1期

生は皆、各自が納得できる場所をしっかりと
見定めて、卒業後の進路を選択しましたね。

成瀬 私は航空会社に内定をいただきました。
飛行機は日本と世界を「速く・多く」
つなぐものです。さらに日本人として日本
のおもてなしを体現できるのが客室乗務
職だと思ったので志望しました。4年間の
学びの先に、この就職先があったという感
じですね。

天野 GSCで学ぶ中で、自分と異なる立
場にいる人にどれだけ思いを寄せられる
かを意識するようになった結果、再生可能
エネルギーに関わる仕事をしたいと思っ
てになりました。就活もこの業界に絞り、再
生可能エネルギー発電事業者である第一
志望の企業の内定をいただきました。

仙波 1期生
はこれから新
しい世界に羽
ばたいていき
ますが、これ
からGSCに入
学する学生に
は、ぜひ自分
がやりたいこ
とを自覚し、
それを実現す
るための勉強
に励んでもら
いたいですね。



成瀬 今後は「地球社会共生」、つまり、世界
中の人々と共に生きることを目指したいで
す。客室乗務員は人種や宗教、性別など、さ
まざまな人と直接関わる仕事なので、それ
を自然に受け入れられる人間でありたいです。

天野 私が進む再生可能エネルギーとい
う業界はマイノリティーですが、社会に貢
献する「地の塩、世の光」を体現できる人
になれたら良いと思います。

升本 現在GSCで学んでいる学生や、こ
れから入学する学生は、1期生たちが学ん
できたことを情報として入手しています。
ですから今後は、良い意味で明確な方向
性を持った学生たちが増えていくこと
でしょう。われわれもそういう学生をしっ
かり育てていきたいですね。

第95回東京箱根間往復大学駅伝競走

大会新記録復路優勝で総合第2位

2019年1月2日(水)・3日(木)に開催された第95回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)で、本学は総合第2位という成績を収めました。往路は3区、主将の森田歩希選手が7人を抜き去る区間新記録の走りでもトップに躍り出ます。しかしレースは例年にないほどハイレベルな展開となり、往路は6位でゴール。復路は6区の野田勇次選手が区間新記録の走りでも5位へ浮上。7区の林奎介選手も、自身が昨年打ち立てた区間新記録でも2秒に迫る区間賞の走りでも3位まで順位を上げます。そのまま勢いに乗った8区以降も区間賞や区間2位の走りでもトップを猛追、アンカーの鈴木塁人選手が2位に順位を押し上げ、復路新記録で復路優勝しました。往路、復路、総合の優勝校がそれぞれ異なる上にすべてが大会新記録を更新するという、各大学の実力が拮抗する中で、10年連続シード権獲得という結果も残しました。



Message
笑顔のゴールが
来年につながる

内山 義英
陸上競技部部长 (国際政治経済学部教授)

往路のレースが終わった後、原監督と私の弱気を吹き飛ばしてくれたのは学生たちでした。そして最後は笑顔でゴールしてくれました。こういう選手たちがいる限り、来年もまたチャレンジしてくれると思います。一人約20kmの長距離、選手たちは沿道からの大きな声援に力をいただきました。誠にありがとうございました。



Message
新たな伝説をつくるべく
進化を遂げる

原 晋 陸上競技部 (長距離ブロック) 監督

選手たちは精いっぱい、2日間箱根路を走り抜けてくれました。残念な気持ちはありますが、努力した結果なので悔いはありません。今年の箱根駅伝では最後まで諦めずやり抜く、粘り強く頑張る姿を伝えることができたと思います。また新たな伝説をつくるべく頑張っていきたいと思います。これからも青山学院大学陸上競技部は進化を遂げていきますので、引き続き温かいご声援のほど、よろしくお願いいたします。



Message
青学の強さを見せられた1年
次の代も結果を出せるチームへ

森田 歩希 選手 主将

4年生が中心となりチームを引っ張ってきて、全日本駅伝と出雲駅伝では優勝することができました。箱根駅伝では5連覇を逃しましたが、この1年は青学の力強さを見ることができたのではないかと思います。今の3年生は元気が良いメンバーが多いので、彼らが新チームを引っ張り、皆さまに良い報告ができると思います。4年間皆さまに支えていただいたおかげで、チームは成長することができました。今後も青学の応援をどうぞよろしくお願いいたします。



出場壮行会 December 13, 2018



報告会 January 3, 2019



報告会 January 10, 2019



総合成績 10時間55分50秒 第2位

往路 大手町～箱根・芦ノ湖 107.5km 5時間32分01秒 第6位 復路 箱根・芦ノ湖～大手町 109.6km 5時間23分49秒 第1位

往路



1区 大手町～鶴見 21.3km

橋詰 大慧 選手
文学部4年
区間3位 1時間2分41秒

最初で最後の箱根駅伝は緊張もありましたが、自分の力を出し切ったので悔いはありません。優勝を逃した悔しさは後輩たちに託します。



2区 鶴見～戸塚 23.1km

梶谷 瑠哉 選手
教育人間科学部4年
区間10位 1時間8分30秒

反省点の多いレースでしたが、1年間やってきたことはしっかり出して走れました。このチームで走れたことは良い思い出になりました。



3区 戸塚～平塚 21.4km

森田 歩希 選手 **区間新**
社会情報学部4年
区間1位 1時間1分26秒

自分の走りとしては満足のいく結果が出せました。新チームで挑戦が始まりますが、次の箱根では良い勝ち方をして締めくくってほしいです。



4区 平塚～小田原 20.9km

岩見 秀哉 選手
教育人間科学部2年
区間15位 1時間4分32秒

先輩たちが良い流れをつくってくれたのに、後半の選手に負担をかける走りをしてしまいました。来年限りベンジできるようにまた1年頑張ります。



5区 小田原～箱根町 20.8km

竹石 尚人 選手
総合文化政策学部3年
区間13位 1時間14分52秒

今回はチームの流れを止める走りをしてしまいました。これが現在の実力だということを受け止め、今後の競技に向き合いたいです。

復路



6区 箱根町～小田原 20.8km

小野田 勇次 選手 **区間新**
経営学部4年
区間1位 57分57秒

4年連続山下りということで最初から区間新記録を狙っていきました。復路優勝はできましたが、来年は悔しさをバネに、後輩たちの健闘を期待します。



7区 小田原～平塚 21.3km

林 奎介 選手 **区間賞**
理工学部4年
区間1位 1時間2分18秒

前を走る選手との差はあまり詰めることができませんでしたが区間賞を取って、今の力はすべて出したと思います。沿道の声援が力になりました。



8区 平塚～戸塚 21.4km

飯田 貴之 選手
総合文化政策学部1年
区間2位 1時間4分34秒

初めての大学駅伝でしたが、7区も9区も強い先輩ばかりだったので緊張を取って、今の力を出し切ることができました。来年は優勝に貢献したいです。



9区 戸塚～鶴見 23.1km

吉田 圭太 選手 **区間賞**
地球社会共生学部2年
区間1位 1時間8分50秒

個人としては区間賞という結果を出せて良かったです。ここまで成長できたのは、4年生と共に生活し、練習してきたおかげだと思います。



10区 鶴見～大手町 23.0km

鈴木 塁人 選手
総合文化政策学部3年
区間2位 1時間10分10秒

何位でタスキをもらっても1位でゴールするという気持ちで走りました。この1年は無駄ではなかったので、ゴールでは自然と笑顔になりました。



第30回 出雲全日本大学選抜駅伝競走

総合成績 2時間11分58秒 第1位

2018年10月8日(月・祝)に「第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走」が開催され、本学は2時間11分58秒の記録で、2年ぶり、通算4回目の優勝を飾りました。距離が短くスピードが求められる出雲駅伝に、練習の成果を発揮した走りを見せてくれました。1区の橋詰大慧選手が得意のラストスパートでトップに出ると、2区の鈴木壘人選手は単独走でペースを刻み、3区の森田歩希選手は確実に後続との差を広げました。4区を走った吉田圭太選手も区間賞の走りを見せ、5区の生方敦也選手が着実にアンカーの竹石尚人選手につなぐと、1区から一度も首位の座を明け渡すことなく完全優勝を果たしました。

 1区 8.0km 橋詰 大慧 選手 文学部4年 区間1位 23分15秒 区間賞	 2区 5.8km 鈴木 壘人 選手 総合文化政策学部3年 区間1位 16分26秒 区間賞	 3区 8.5km 森田 歩希 選手 社会情報学部4年 区間2位 25分21秒	 4区 6.2km 吉田 圭太 選手 地球社会共生学部2年 区間1位 18分00秒 区間賞	 5区 6.4km 生方 敦也 選手 教育人間科学部3年 区間2位 18分48秒	 6区 10.2km 竹石 尚人 選手 総合文化政策学部3年 区間2位 30分08秒	
---	--	---	--	--	--	--

2つの大学駅伝で優勝！

秩父宮賜杯 第50回 全日本大学駅伝対校選手権記念大会

総合成績 5時間13分11秒 第1位

2018年11月4日(日)に「秩父宮賜杯 第50回全日本大学駅伝対校選手権記念大会」が開催され、本学は5時間13分11秒の記録で、2年ぶり、通算2回目の優勝を飾りました。同大会は名古屋市熱田神宮から三重県伊勢神宮までの106.8kmを全8区間でつなぐレースです。今大会から距離が短縮した前半1～4区間は速い展開、距離が延びた後半5～8区間は安定した走りが予想されました。本学は4区の林奎介選手がトップとの差を縮めると、5区の吉田祐也選手と6区吉田圭太選手が連続区間賞で追い上げます。さらに7区で主将の森田歩希選手が単独トップに躍り出て、最終走者の梶谷瑠哉選手が首位をキープしたままゴールしました。



 1区 9.5km 小野田 勇次 選手 経営学部4年 区間3位 27分29秒	 2区 11.1km 橋詰 大慧 選手 文学部4年 区間5位 32分21秒	 3区 11.9km 鈴木 壘人 選手 総合文化政策学部3年 区間3位 34分42秒	 4区 11.8km 林 奎介 選手 理工学部4年 区間3位 34分27秒	 5区 12.4km 吉田 祐也 選手 教育人間科学部3年 区間1位 36分23秒 区間賞	 6区 12.8km 吉田 圭太 選手 地球社会共生学部2年 区間1位 37分29秒 区間賞	 7区 17.6km 森田 歩希 選手 社会情報学部4年 区間2位 51分36秒 MVP	 8区 19.7km 梶谷 瑠哉 選手 教育人間科学部4年 区間3位 58分44秒
--	---	--	---	--	---	---	---

特集 アディダス ジャパンとのパートナーシップに関する取り組み インターンシップ参加学生報告

本学はアディダス ジャパン株式会社とスポーツ分野におけるパートナーシップ契約を締結しています。就業体験を通して視野を広げ、習得したものを学生生活やキャリア形成にも生かせることから、2017年度より、アディダス ジャパン株式会社においても、本学と提携したインターンシップがスタートしました。2018年10月から3カ月間スポーツマーケティングの現場でさまざまな就業体験と、課題を体験した学生2名のコメントを紹介します。



イベントの企画・運営を任せられ 責任感が強くなりました

石松 皆実さん
経営学部 経営学科3年 東京・私立青山学院高等部出身



社内イベントでボルダリングの野中生萌選手と

一番印象に残っている業務は、社内報として毎週担当させていただいていた「Sentence Autumn」の執筆です。内容は契約選手のSNS投稿の中から印象的な投稿を抜粋し、コメントと一緒に掲載するというものでした。選手の方々のプライベートの様子が垣間見えるSNS投稿はとても新鮮で面白く、毎週記事を書くのが楽しみでした。また、プロバスケットチーム「ALVARK TOKYO」の選手を招いて行うイベントの企画・運営も任せさせていただきました。イベントを実施するにあたり、すべての参加者が楽しめるコンテンツを考え、チーム・通訳の方・イベントのサポートスタッフに向けそれぞれ企画書を作成し、さらにイベントの告知方法を工夫しました。イベント主催者である私たちの言動には重い責任が伴うと同時に、自分たちが動かなければ何も始まらないということにも気がきました。これをきっかけに業務に対する考え方が変わり、インターンシップ前よりも責任感が強くなったと思います。今回の貴重な体験を通じて、大好きなスポーツの世界の舞台裏には多くの方が関わっていることを知り、世界観が広がりました。インターンシッププログラムに携わるすべての方々に感謝しています。



インターンシップを担当してくださったスポーツマーケティング部門の山田拓也さん(中央)と

社員の皆さんの働く姿から 学生生活ですべきことが見えました

福田 寛人さん
地球社会共生学部 地球社会共生学科3年 埼玉・私立武南高等学校出身



田中将大投手と社員の方々と

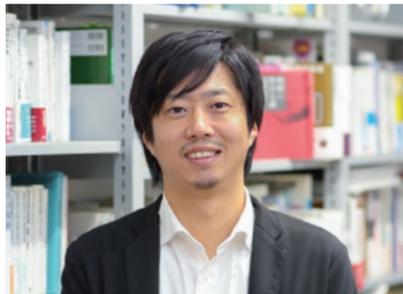
体育会サッカー部に所属している中で、スポーツメーカーがスポーツを通じてどのように社会に貢献しているのか、実際の業務を通して深く知りたいと思いインターンシップに応募しました。契約選手のSNSの掲出状況の整理、注目ニュースの配信、配達物の整理などの業務を中心に行っていました。中でも社員の方向けにバスケットボールの魅力伝えるイベントを企画したことが、印象に残っています。イベント開催におけるすべての業務を担当することは大変でしたが、ゲスト選手や参加者から「楽しかった」と言ってくれたことが非常に嬉しかったです。また、実際のイベントなどの現場にも同行させていただき、企画や運営をする立場からスポーツメーカーの世界を見るという貴重な経験ができました。トップアスリートと直接関わる機会が想像以上に多いことにも驚きました。社員の皆さんの働く姿を見ていると、先を読む力や課題の見つけ方、解決方法、行動、頭の回転の速さなど学生とは大きな差があると感じました。そのためインターンシップ後は、常にさまざまなところにアンテナを張り、「なぜ」という感覚を大切にしています。3カ月間、非常に充実した日々を過ごすことができました。この経験を、今後のキャリアにも生かしていきたいです。



ALVARK TOKYO VISIT EVENT



AGU Lecture 091



コミュニティや社会活動における学習

香川 秀太
社会情報学部 社会情報学科准教授

社会情報学部では、人間について深く理解することも大きなテーマです。心理学科目があるのもそのためです。当ゼミナール(ゼミ)は、心理学の中でも「関係論」と呼ばれる分野をベースに、“異質なものが交わる中で発生していく創造活動やコミュニティ”のあり方を研究しています。

関係論では、心は人と人との関係の中に立ち現れると捉えます。人間は一人では生きられません。違った特性を持つ人々が結びつくことで、楽しさや面白さといった感情が生まれます。互いに知恵を出し、高め合って、新たな価値を創造することもできます。それこそが、単に知識を受け取るだけではない本来の“学習”なのだという考えです。

ゼミ生は皆、「学習心理学」の授業で理論を学んだ上で参加しています。まず3年前期にはコミュニティ関係の書籍を読んでレポートを提出し、後期は外部団体とタイアップした複数のイベントに取り組みます。代表的なものは、相模原市の淵野辺にある冒険遊び場「銀河の森プレイパーク」での「銀森祭」です。2年前にスタートしたイベントで、今年度はビニールに落ち葉をくっつけたオリジナルの服を作り、ファッションショーを行うなど、多くの子どもたちに楽しんでもらいました。地域の

公園を考える市民グループ「公園のまちフチノベ部」との協働では、野外での椅子やランタン作りや、映画上映を実施しています。また、都内の中学校の地域イベントに向いて、ゼミ生たちの多様な特技(ダンスやけん玉など)を組み合わせたショーも行いました。

4年生は個人またはチームでの卒業研究に取り組みますが、選ぶテーマは古民家カフェの調査、建築とまちづくりなど、コミュニティに関するものがほとんどです。皆、とても積極的に動いていますね。

ゼミも、多様な個性が集まる一つのコミュニティです。それぞれの特性を生かせる関係性がつくれれば、地域や社会にプラスになる活動ができることを、ゼミ生たちは自然に体感してくれています。また、地域や社会の問題を深く考え、具体的に行動していくためには、経済学や社会学、情報科学、哲学、さらに場合によっては建築やアートなどさまざまな知識を融合していく必要があるということも学びます。

これからの日本は、小規模のローカル企業やコミュニティが流動的に連携しながら社会を変えていく時代になるでしょう。ゼミでの互いの良さを生かし合う経験は、どんな場面でもきっと力になるはずです。



香川ゼミ学生
木田 圭祐さん
社会情報学部
社会情報学科4年
静岡県立
静岡東高等学校出身

香川ゼミに入りたいと考えたのは、1年生のときに学生主催のゼミのイベントを見たことがきっかけでした。学生たちが主体となってスポンサーを見つけて、運営をしていることに驚きました。ゼミを決める際にも見学し、学生の個性を生かし合い活動を行う香川ゼミなら、心理学を深めながら、人前に出るのが好きな自分の性格を生かして学習につながると思いました。

ゼミに入ると、まずは学生同士の良い人間関係をつくっていきます。幾度となく話し合う中で互いの意外な一面にも気づき、皆すっかり仲良くなれました。3年次の前期が終わる頃から「銀森祭」の準備が始まりました。外部の方々との交流も多く、本当に楽しい体験でした。

卒業研究テーマは「建築によるコミュニティ形成」です。建築物を介した地域づくりの取り組みを各地で調べ、新たなコミュニティ形成が始まるきっかけが、貧困格差・互助関係衰退・自然破壊の3要素に分かれることが分かってきました。内定先の音楽業界では、地方での音楽イベントを手がけることが目標です。地域の活性化につなげていくためにも、グループワーク等香川ゼミでの実践的な学びは大きく役立つと感じています。

TOPICS

菊池努副学長就任式を挙行



菊池努副学長

2018年12月17日(月)、本部礼拝堂において「青山学院大学 副学長就任式」が執り行われました。祈禱が捧げられた後、就任にあたっての「誓約」が、大島力学院宗教部長、山本与志春院長、そして新しく大学副学長(国際・広報担当)に就任する菊池努教授(国際政治経済学部国際政治学科)により行われました。

山本院長の祝辞の後、三木義一学長が菊池副学長の経歴・専門を紹介し「素晴らしいエネルギーを本学のために注いでいただくことになりました。皆さまには新副学長をお支えいただきたいと思っております」と述べました。

続いて、新任の菊池副学長より就任の辞として、「思いがけない重責に身の引き締まる思いです。三木学長の『大学を良くしていきたいという熱い思いを実現する隊列の一員』としていただいたことを光栄に思います。戦後最大の変化が起こっている中、本学もどう生き延びていくかを必死に考えています。その一端を担えることをありがたく思っています。未熟ではありますが、ご指導のほどよろしく願いいたします」と抱負が述べられました。大島宗教部長の祝詞をもって就任式は終了しました。

レスリング部が全日本選手権で優勝・準優勝を獲得

2018年12月20日(木)から23日(日・祝)に開催された「2018年天皇杯全日本選手権」で本学レスリング部の藤田雄大選手(経営学部マーケティング学科4年)が男子フリースタイル61kg級に出場し、創部史上初の現役学生として日本一に輝き、2019年1月11日(金)に三木義一学長に優勝報告を行いました。

準決勝では全日本学生選手権第2位の吉村拓海選手(早稲田大学)と対戦し、リードを許す展開となりながらも、残り3秒で逆転。攻める姿勢を貫き決勝進出を決めました。決勝戦の相手は第1シードの有元伸悟選手(近畿大学職員)。元世界選手権の代表を相手にしながらも最終試合を優位に進め、6対0の完勝で初優勝を飾りました。

本学出身の全日本選手権優勝は私以来となり、攻めるレスリングが今回の結果につながっています。2020年を見据えた今後のさらなる活躍を期待しています。

女子50kg級では、加賀田葵夏選手(経営学部マーケティング学科3年)が準優勝となりました。激戦の国内予選を勝ち抜き2020年の東京オリンピック出場を目指してほしいと思います。(体育会レスリング部監督 長谷川 恒平 記)



左から加賀田葵夏選手、三木義一学長、藤田雄大選手

朝日教育会議イベント「AI時代の大学教育—『人文知』VS『専門知』」(朝日新聞社主催、青山学院大学共催)を開催

2018年12月15日(土)、青山キャンパス17号館本多記念国際会議場にて、「朝日教育会議2018」(朝日新聞社が15大学と協力して展開する連続シンポジウム)を開催しました。朝日新聞社教育コーディネーターの一色清氏の進行のもと、AI(人工知能)が発達する中で、新たな時代における人文教育のあり方について議論がなされました。

第一部の基調講演では、総合文化政策学部の福岡伸一教授が「AIは生命を理解できるか?」と題して、講演を行いました。「生命とは何か」という問いに対して、分解と合成という相反する行為を同時に実行する「動的平衡」にある状態とし、動的平衡の生命観はAIにはなかなか理解できないのではとの考えを示し、シンギュラリティー(AIが人間の知性を超え、世界を根底から変えてしまう転換点。「技術的特異点」)は起こらないだろうと結びました。



基調講演

第二部のパネルディスカッションでは、「AIが拓き、人文知が築く、大学の未来」と題して、西垣通教授(東京経済大学教授、東京大学名誉教授)、小林康夫特任教授(総合文化政策学研究科、東京大学名誉教授)、水野千依教授(文学部比較芸

術学科)と福岡教授の4名が、意見交換を行いました。AIが発達すると、人文系学問の重みは増すの



パネルディスカッション

か、それとも軽くなるのかというテーマで、熱のこもった議論が展開されました。AIが人間を超えることに、登壇者はおおむね否定的でした。人文系学問にAIを活用するにはなるが、AIが発達すればするほど人間を知り、理解することの重要性も増すのではないだろうか等、AI時代に向けての興味深いヒントが提示されました。

当日は、一般の方々をはじめ、在校生や教職員等の来場者で会場が満席となり、多くの方が熱心に耳を傾けて、盛況のうちに幕を閉じました。

当日のイベントの詳細は、以下の朝日新聞サイトでご覧になれます。
URL <http://manabu.asahi.com/aef2018/aoyamagakuin.html>



2018年度 卒業・修了、進級および成績に関する日程

日時	内容	備考
3月 7日(木)10時30分～	修了決定者発表・成績通知書開示 (専門職大学院)	卒業・修了決定者の成績通知書は、3月25日(月)まで学生ポータル上で閲覧 できます。
3月 9日(土)10時30分～	卒業決定者発表 成績通知書開示(4年次生・大学院生)	
3月 9日(土)13時00分～	修了決定者発表(大学院)	
3月 9日(土)13時30分～	成績通知書開示(1～3年次生)	
	進級決定者発表	進級条件が設定されている学年のみ
	卒業見込可能者発表	理工学部・社会情報学部3年次生のみ
3月11日(月)	保証人宛成績通知書発送	卒業決定者には発送されません。
3月25日(月)	学位授与式	所属の学部・研究科によって時間が異なりますのでご注意ください。 詳しくは本学ウェブサイトをご覧ください。 3月の卒業発表後、保証人の方(専門職大学院は除く)宛にご案内状を発送いたします。

※詳細は学生ポータルや、本学ウェブサイトをご参照ください。

2018年度 春期休業期間中の窓口案内 (1/30(水)～3/31(日))

詳細は本学ウェブサイト
でご確認ください。

2019年度 学事暦(学部)

年度初頭のオリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断は学部・学科ごとに行います。
日時・場所の詳細は学生ポータルにて配信しますので、必ず確認してください。

前期	後期
4/1(月) 入学式	9/20(金) 後期授業開始
4/1(月)～5(金) オリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断*	10/2(水) 後期履修登録最終日
4/6(土) 前期授業開始	10/12(土)、13(日) 相模原祭期間(12(土)は相模原キャンパスのみ休講)
4/8(月)～12(金) 新入生歓迎礼拝	10/14(月・祝) 授業実施日(体育の日)
4/9(火) 新入生歓迎礼拝(夕礼拝)	10/14(月・祝)～18(金) チャペル・ウィーク(後期)
4/15(月) 前期履修登録最終日	10/31(木) 宗教改革記念日礼拝
4/22(月) イースター礼拝	11/1(金)～3(日・祝) 青山祭期間(青山・相模原キャンパスとも休講)
4/23(火) イースター礼拝(夕礼拝)	11/15(金) 創立記念礼拝
5/6(月) 授業実施日(こどもの日の振替休日)	11/16(土) 授業実施日(創立記念日)
5/13(月)～17(金) チャペル・ウィーク(前期)	11/29(金) クリスマス・ツリー点灯祭
5/24(金) ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝	12/17(火) クリスマス礼拝(青山キャンパス)
6/10(月) ペンテコステ礼拝	12/19(木) クリスマス礼拝(相模原キャンパス)
6/15(土) アドバイザー・グループ・デー(青山・相模原キャンパスとも授業を実施)	12/25(水)～2020年1/4(土) 冬期休業期間
7/15(月・祝) 授業実施日(海の日)	1/6(月) 後期授業再開
7/27(土)～8/3(土) 前期定期試験期間	1/14(火) 振替授業日(月曜日の授業を実施)
8/5(月)～7(水) 清里サマー・カレッジ	1/15(水) 振替授業日(土曜日の授業を実施)
8/5(月)～9/19(木) 夏期休業期間	1/16(木) 補講日(青山キャンパス)
9/28(土) 9月学位授与式	1/16(木)、17(金) 補講日(相模原キャンパス)
	1/17(金)～19(日) 大学入試センター試験および同準備日(17(金)、18(土)は青山キャンパスのみ休講)
	1/27(月)～2/3(月) 後期定期試験期間
	学位授与式
	3/25(水) 卒業礼拝

※青字は、宗教行事です。
※大学院・専門職大学院の学事暦は一部異なります。本学ウェブサイトや『大学院要覧』等を参照してください。
※健康診断は青山キャンパス4/1(月)～5(金)、相模原キャンパス4/2(火)～5(金)に実施します。

2019年度 学費納付のご案内(学部・大学院)

納付スケジュールとご注意

発送日	発送対象者	振込依頼書種別	納入期限	注意事項
4/11(木) 予定	学部生 大学院生	前期分学費 前後期一括学費	5/7(火)	前期分学費をお振込の場合は、後期分学費振込依頼書を保管の上、後期納入期限までにお支払いください。
		後期分学費	9/30(月)	
7/18(木) 予定	教職・諸資格 申請学生	後期分学費 ※教職・諸資格課程料加算 教職・諸資格課程料	9/30(月)	前期分学費お支払い済みの場合は、後期学費に 教職・諸資格課程料を加算した金額の振込依頼書 をお送りします。前後期一括学費をお支払い済みの場合は、 教職・諸資格課程料のみの振込依頼書 をお送りします。

■学部生の振込依頼書は、申し出がない限り、原則として保証人宛に送付します。学生本人宛に送付先変更を希望する場合は、学生生活部学費・奨学金課(青山キャンパス)・学生生活課(相模原キャンパス)に「学費振込用紙送付先変更届」を提出してください。

■入金確認のため、大学より送付する振込依頼書を用いて、金融機関窓口で納付してください(ATM・インターネットバンキングを利用される場合は、同封の案内文に記載されている注意書きに従って手続きしてください)。なお、振込手続きの際、公的機関発行の身分証明書等の提示が必要となる場合があります。詳細は各金融機関窓口にお尋ねください。

最終年次2年目以上(休学除く)

発送日	発送対象者	振込依頼書種別	納入期限
5/17(金) 予定	学部生	前期分学費	6/3(月)
5/24(金) 予定	大学院生		6/10(月)
10/21(月) 予定	学部生	後期分学費	11/8(金)
10/25(金) 予定	大学院生		11/8(金)

■最終年次において留年した場合、履修登録単位数によって学費が異なります。履修登録後に学費を算出するため、振込依頼書の発送および納入期限は左表の通り予定しています。

相談・問い合わせ先

各種申請は、学生本人が直接窓口へ来るようにしてください。個人情報取り扱いなどの関係上、電話では承れません。春期休業期間中の窓口開室日時は本学ウェブサイトをご覧ください。

① 保証人住所の変更 在学生住所の変更	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学生生活課 学生生活課
② 振込依頼書の送付先変更・再発行 学費の延納	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学費・奨学金課 学生生活課
③ 振込手続き、学費一覧表	青山キャンパス	庶務部 経理課
④ 休学・退学	〈学部〉 青山キャンパス 相模原キャンパス	学務部 教務課 学務課 〈大学院〉 青山キャンパス 大学院生：学務部 教務課 専門職大学院生：学務部 専門職大学院教務課 相模原キャンパス 学務課

2018年度 青山学院学術賞

「青山学院学術賞」は、専門分野の研究において、学術の進展に寄与すると認められる業績を発表した青山学院の専任教員に授与される賞です。2018年度は、大学から以下の4名が受賞しました。

- 文学部 史学科 平田 雅博 教授
[著書] 『ウェールズの教育・言語・歴史 ―哀れな民、したたかな民―』(2016年3月 晃洋書房)
- 経済学部 経済学科 松本 茂 教授
[編著書] *Environmental Subsidies to Consumers: How did they work in the Japanese market?* (2015年6月 Routledge)
- 理工学部 情報テクノロジー学科 佐久田 博司 教授
[体系的研究(含 発明)] Webアプリケーションを基盤とする次世代の情報環境への技術展開 ―教育・福祉分野および材料開発支援における実証課題の解決―
- 会計プロフェッション研究科 会計プロフェッション専攻 町田 祥弘 教授
[著書] 『監査の品質 ―日本の現状と新たな規制―』(2018年3月 中央経済社)

青山学院校友会からのお知らせ

青山学院校友会ウェブサイト <http://www.alumni-aogaku.jp/>

青山学院には、卒業生同士の親睦を深め、母校との絆をつなぐ「青山学院校友会」が組織され、すべての卒業生が正会員として迎えられます。各学部・学科同窓会の他、国内55カ所・海外19カ所の地域支部、職種別団体や部活動OB・OG団体等が参加するアイビーグループによって構成されており、多彩な活動を行っています。卒業後はぜひ積極的に校友会活動にご参加ください。校友の活躍やニュース等は、年に3回発行する『あなたと青山学院』で紹介しております。学生食堂などで配布しておりますので、ぜひご覧ください。



「あなたと青山学院」
No.29

〈卒業生の皆さまへ〉

校友会の事務局は「青山学院校友センター」です。校友センターは卒業生の住所など基本情報を管理し、卒業生と母校青山学院とを結び窓口となっています。氏名、住所等に変更が生じた場合は、必ず校友センターへお知らせください。校友センターに寄せられた個人情報は「学校法人青山学院個人情報保護基本方針」に従い厳重に管理し、青山学院および校友会活動に関わることに活用されます。

青山学院の広報誌

卒業後「AGU NEWS」の発送は終了しますが、下記の広報誌を通して卒業生の皆さまに「青山学院の今」をお伝えしていきます。

『あなたと青山学院』

住所の判明している校友全員に定期的無料でお送りしています。

〔住所変更・発送に関する問い合わせ先〕

青山学院校友センター TEL : 03-3409-6645 E-mail : agkoyu@aoyamagakuin.jp

『青山学報』

1916年創刊の青山学院公式機関誌。法人および幼稚園から大学・大学院までの青山学院の情報をお伝えしています。年4回の発行で、年間定期購読料は2,000円(送料含む)です。

〔定期購読に関する問い合わせ先〕 青山学院購買会 TEL : 03-3409-4401

2019年度 一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験報告

2019年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験はすべての試験が終了し、志願者数は、一般入学試験が46,287名(前年度49,855名)、大学入試センター試験利用入学試験は14,117名(前年度13,050名)で、合計60,404名(前年度62,905名)でした。

最も多い試験日で約6,500名の受験者が青山キャンパスに来校しました。本学学生団体(吹奏楽/バントワリング部、キャンパスツアーガイドボランティア、ボランティアセンター学生スタッフRoute)や入試アシスタント学生が、多くの受験者の正門入場や試験室への適切な誘導、試験室の監督補助などを行い、学生の大きな協力を得て2019年度一般入学試験は無事に終了しました。



正門で受験票を確認する「吹奏楽バントワリング部」の学生たち

Club & Circle 42 準硬式野球部

全員の気持ちを一つにして東都大学の2部リーグで優勝、1部へ昇格。

準硬式野球部は現在男子51名、女子13名の計64名で活動しています。練習は週3回なので、学業やアルバイトと両立しながら、部活も楽しめて大学生活をより充実したものにできます。2018年の目標は、2部リーグ優勝と1部リーグ昇格でした。指導者がいない私たちにとって、この目標は高く漠然としていましたが、部員全員が当事者意識を持つため、自ら考え工夫しながら練習することを徹底し、足りないものは何かを常に考えるよう指示していました。また学年や立場に関係なく意見交換できる雰囲気づくりも



心掛け、チームの結束力を高めていきました。秋季リーグ最終戦は1点ビハインドという展開になりましたが、結果は9回裏で逆転サヨナラ勝ち。この優勝を決めた瞬間が一番心に残っています。そして1部との入れ替え戦にも勝利し、12年ぶりの1部昇格を決めました。大きくて困難な目標を達成するためにはチームの気持ちを一つにすることが大切であると実感しました。

(主将：経営学部 マーケティング学科3年 大塚 理貴 記)

AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。

- 最新号からバックナンバーまで、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
- 確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きを**してください。



●2019年2月28日発行●